

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに「富山市立八尾小学校」へ

富山市立櫛尾小学校



「すくすく生い立つ若木のように」

本校は、明治11年7月に永進小学校として開校しました。それまでは、現在の八尾小や杉原小まで通っており、地域にとって待望の小学校でした。以来、145年にわたり、2000名を超える卒業生を輩出してきました。

今年度は、2～6年生21名の児童が在籍しています。伝統ある活動として、学校横の道路を使つての坂道マラソンがあります。息を切らしながら走り、体力向上を目指しました。また、少人数の特色を生かし、全校で総合・生活科の学習を行い、学校の歴史を調べました。休み時間には、全校児童がなかよく遊ぶ姿が見られます。校歌に歌われる「若木」のように、すくすく成長している子供たちです。

他にも、地域の皆様にご指導をいただきながら行った田植え・稲刈り体験、保護者の皆様にご協力いただいた運動会など、「地域に開かれた学校」として教育活動を推進してきました。

令和6年度より、八尾小学校と統合します。櫛尾小で学んだことを忘れず、協力し互いを高め合っていってほしいと願っています。

長い歴史に幕・統合 新たに「高岡市立五位小学校」へ

高岡市立五位小学校



新たな出発

令和2年4月、東五位小学校と石堤小学校が先行統合し、五位小学校が開校しました。以来4年間、東五位地区の子供たちは多くの見守り隊の方に付き添われながら集団登校で、石堤地区の子供たちはバス通学で、毎日元気に登校しています。

特色ある活動としては、東五位小学校の伝統であった俳句作りの活動や国道8号線の地下道完成以来続けている地下道清掃ボランティアが挙げられます。1年生から6年生まで季語を使いながら発想豊かに俳句を詠んだり、せっせと地下道を掃いたりする姿を見ると、心が育ってきたなあと思います。

本校は令和6年3月に一旦閉校した後、令和6年4月に千鳥丘小学校と統合し、児童数400余名の“新”五位小学校として出発します。子供たちには、これまで以上に培ってきた「かしこさ」「やさしさ」「たくましさ」を発揮してほしいと願っています。

高岡市立千鳥丘小学校



地域と共に歩む

本校は、立野小学校と小勢小学校が統合し、昭和40年4月、千鳥丘小学校として開校しました。立野と小勢の接点にある立野地区の小学「千鳥免」という高台に校舎が建設されたことから、「千鳥丘」と名付けられました。

校区には、旧街道筋に発達した住宅街の立野地区と自然豊かな散居村の風を呈した農村地帯の小勢地区と二つの地域があります。「千鳥ウォーク」や「千鳥の森学習」等、地域の教育資源を生かした「ふるさと教育」を大切に、地域と学校が連携、協力して「地域と共に歩む」教育活動を推進してきました。

令和6年4月、先に東五位小学校と石堤小学校が統合して開校した五位小学校と再統合し、“新”五位小学校として新たな一歩を踏み出します。今後も「地域と共に歩む」教育活動を継承し、新たな歴史と文化を築いていくことを願っています。

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに「高岡市立高岡西部小学校」へ

高岡市立横田小学校



「研精魂」が息づく学校

本校は、明治7年「高岡西之学校」として開校し、昭和22年に現在の横田小学校と改称されるまでに校名変更や校舎の移転等、幾多の変遷を経て現在に至ります。明治31年に小松宮彰仁親王が揮毫された扁額「研精小学」が寄贈され、それに起因して研精獅子の校章が創られました。以来、「研精」（学問の真理を究め明らかにすること）の心は脈々と継承され、学校、家庭、地域に息づいています。「誠実なれ、親切なれ、勇気を起こせ」という校訓は本校の象徴であり、この「研精魂」を抛り所に子供たちは学習に励み、人としての大切な心を学んできました。

本校では一人一人が自分で考えて働きかける「あったか活動」を大切にし、落ち葉掃きやあいさつ運動等、人のために取り組んでいます。地域の「御印祭」では「弥栄節」を踊り地域の伝統文化にも親しんでいます。149年の歴史を胸に、これからも人のために尽力し、地域に愛着と誇りをもって新たな歴史と伝統を刻んでほしいと願っています。

高岡市立西条小学校



ふるさとへの愛着と誇りをもって

本校は、明治7年、横田村浄源寺を仮校舎に開校されてから149年、幾多の変遷を経て、令和6年3月をもって閉校します。

本校の校区には、高岡鑄物発祥の地であり、重要伝統的建造物群保存地区の選定も受けた金屋町があります。また、校歌の一節には「農工商の花さいて」と謳われており、高岡開町以来400年を超える歴史や伝統、文化、産業、そして、それを支える人々など、魅力にあふれています。

本校では、このような校区の特色ある資源を生かし、ふるさとを学びのフィールドとして、体験的な学習に取り組んできました。

4月からは、横田小学校、川原小学校と統合し、高岡西部小学校が開校します。自分たちが住む地域への愛着と誇りは、他の地域を尊重する心にもつながります。子供たちには、ふるさとへの愛着と誇りをもって、新たな学校づくり、新たな地域づくりの担い手として活躍してほしいと願っています。

高岡市立川原小学校



川原の誇りを 遙か とこしえに

明治34年4月、川原地子尋常小学校が誕生しました。川原町は、その昔、文字どおり千保川の河原であり、古くから魚河岸の町として栄え、魚屋や塩乾物を扱う店が並び活気に満ちていました。校舎2階の窓からは、千保川を行き交う船もよく見えたそうです。昭和9年の校舎改築で県下最初の鉄筋コンクリート3階建ての小学校となり、講堂は市民のためのいろいろな集会に利用されました。学校は今もなお、住民のシンボリックな存在として愛されています。また、地域やPTAの子供たちへの想いは熱く、これまでPTA活動や土曜学習推進等において数々の表彰を受けてきました。子供たちの明るくのびのびとした姿や、人のために何かしたいと考え、行動する温かい心はまさしく地域で磨かれたものであり、我が校の誇りでもあります。子供たちは川原の人々に愛されながら「高岡西部小学校」で新たな歩みを始めます。これからも人を大切にし、川原の誇りを遙か とこしえに受け継いでほしいと思っています。

わが校の歴史から

長い歴史に幕・統合 新たに「南砺市立利賀学舎」へ

南砺市立利賀小学校



利賀地域の皆さんの願いとともに

平成8年に利賀小学校と坂上小学校が統合し、新しく「利賀小学校」が開校しました。そして平成10年には、現在の校舎である、複合教育施設「アーパス」が完成しました。この施設には、利賀小学校、利賀中学校、そして、地域の生涯学習施設が一つの建物内に併設されています。「小さな子どもから大人まで、利賀地域すべての人が学び合う学校に」という、利賀地域の方々の壮大な願いが込められた他に例をみない校舎です。

また、地域内には「ロンレー子ども村」という野外活動の場があり、小学生は年に数回、自然の中に作られた遊具で思い切り遊ぶことができます。これも利賀の自然に親しみ、たくましく育てほしいという地域の願いが込められた大切な施設です。

このように、利賀地域の皆さんからの熱い思いをいっぱい受けながら、利賀っ子は豊かな自然の中ですくすくと育っています。

南砺市立利賀中学校



歴史をつないで

本校は昭和22年4月に、利賀村立利賀中学校として開校しました。初めは、利賀小学校校舎の一部を利用していましたが、昭和23年に校舎が建設されました。そのころには分校が5つありました。

昭和37年には、分校を廃止し、統合校舎が建設されました。当時の生徒会誌には、校舎新設の喜び、寮生活の楽しみや困ったこと等が記されており、今の中学生と変わらぬ生き生きとした様子が読み取れます。

平成10年には、現在の校舎、複合教育施設「アーパス」（小・中学校、公民館が一体となった施設の呼び名）が完成しました。

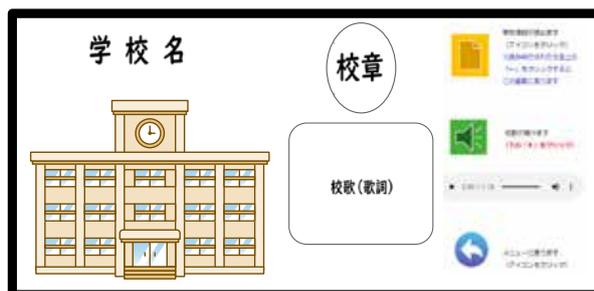
校章は、雪の結晶をかたどったもので、間の線は山ひだ、先端の小さな円には健康、明朗、敬愛、責任、実践、努力の6つの願いが込められています。白色は「正義と真理の追究」をあらわし、全体としては「未来を切り拓く若人」をシンボル化したものです。

長い歴史と文化を「南砺市立利賀学舎」へとつないでいきます。

お知らせ 「学校情報閲覧コーナー(仮称)」、この4月に開設!

今年度(令和5年度)、近代教育制度開始150周年を迎えました。この節目に「校歴等、学校情報調査」を実施したところ、県内すべての学校からご協力をいただき、来年度(令和6年度)4月より、子供たちをはじめ、広く県民の皆さんに、調査したものを「県内の学校の今」として紹介することになりました。

紹介する内容は、学校名、校舎、校章、校歌、教育目標や校歴等の学校情報です。著作権を考慮し、当館内のコンピュータの画面上のみでの検索・視聴とします。なお、学校情報は冊子でも読むことができます。



学校情報のアイコン
学校情報が読めます

校歌のアイコン
校歌が聴けます

情報は令和5年7月
現在のものです